

***** 2013.3.27 発行*****

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

編集・発行：日本マラウイ協会
 〒102-0082 東京都千代田区一番町23番地3
 日本生命一番町ビル5階
 公益社団法人 青年海外協力協会 気付
 Tel. 03-6674-1331 E-mail: japan.malawi@gmail.com
 Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>

【マラウイ共和国】

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)
 人口：1538 万人 (2011 年世界銀行)、首都：リロングウェ
 独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語
 政体：共和制、大統領：ジョイス・バンダ
 為替レート：US\$ 1 = MK 376.392 (3月2日現在)
 MK 1 = 0.24 円 (3月2日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数：205人(3月1日現在)



マラウイ共和国 国旗



イベント グローバルフェスタ2012



▲ IMF・世界銀行年次総会代表団の方たちと

いただいた。

当会では今後ともこうした機会を捉え、マラウイのPRに努めていきたいと考えている。

2012年10月6・7日(土・日)の両日、東京・日比谷公園で「グローバルフェスタ2012」が開かれた。これは2004年まで「国際協力フェスティバル」と呼ばれていた催しで、2005年から名称が変更された。今回で22回目となり、日本マラウイ協会は1994年の初参加から19回連続の参加となった。

当日は割り当てられたテントにマラウイ国内の写真パネルや当会の活動を紹介するパネルを展示した。また、青年海外協力隊 (JOCV) マラウイ派遣OB/OGが持ち帰った民芸品や9月末に発刊したばかりの「チェワ語辞典統合改訂2版」も展示販売した。

さらに、「マラウイ母の会」の皆さんのご協力により、手作りのチテンジバッグも販売した。このチテンジバッグの売れ行きは来場した若い女性たちに好評で非常に多くの収益があった。

7日(日)には、9日から有楽町の東京国際フォーラムで開かれるIMF国際通貨基金・世界銀行年次総会に出席するマラウイ代表団数人が当会テントを訪れ、当会活動に感謝する旨のお言葉を

レポート ウォームハートプロジェクト 進行中

マラウイ派遣青年海外協力隊員の本来業務以外の活動を支援するため当会が資金提供する「マラウイウォームハートプロジェクト」の申請がJICAマラウイ事務所を通じて次のようになり、審査の結果採択した。本年2月21日付けで数原孝憲会長が署名・決裁した。

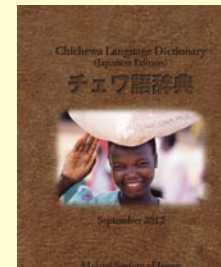
申請者：和泉澤 浩 平成23年度2次隊
 佐藤 健大 平成22年度3次隊
プロジェクト名：青少年センター (屋内スポーツ場) 床板貼り付けプロジェクト
送金額：当会支援 300,000円
 外部寄付 27,300円
 の米ドル相当額

現在、同プロジェクトは進行中であるが、詳細については次号にて報告する。

チェワ語辞典統合改訂2版 現地語教材として採用される!

～JICAマラウイ事務所～

当会が昨年9月末に発刊した「チェワ語辞典統合改訂2版」が、JICAマラウイ事務所での青年海外協力隊員らの現地語教材として採用され、1月に納入した。当会としては1987年5月に発刊した「チェワ語辞典 初版」以来続けられた先輩OB/OG諸氏および外部協力者の編集・改訂の努力が結実し、評価されたものと考えている。これにより、在庫は50冊余りとなった。購入ご希望の方は4面の「日本マラウイ協会の刊行物」を参照のうえ、お早めにお申し込みください。



◀ 表紙写真

投稿 かいま見たマラウイ

昭和51年度1次隊前期
 鶴田伸介 (理数科教師)

はじめに

私は、公益社団法人 青年海外協力協会 (JOCA) による「マラウイ農民自立支援プロジェクト」の国内支援委員になっていることもあり、お手伝いとして2012年10月26日から11月4日までと11月29日から12月14日までの2回にわたってマラウイの主にムジンバを訪問しました。プロジェクトに関することはJOCAのウェブサイトなど別の情報源に譲ることにして、ここでは20日程度の短期間でかいま見たマラウイの印象

を報告いたします。

マラウイの現状

2012年4月5日の大統領の急死にともなって就任したジョイス・バンダ新大統領の5月18日の一般教書演説にはマラウイの現状を示唆する次の部分があります。「私には夢がある。マラウイ人が社会的、政治的、経済的に最大限の能力を發揮している。政府は経済成長と富の創造を通じて貧困を撲滅している。ガソリンスタンドに行けばガソリンがある。電気は一日中通じている。清潔な水が供給されている。農村の子供たちがコンピュータで遊んでいる。国中で産業が起こっている。」というものです。実際、マラウイの生活水準は向上してきているとはいえ、いまだに概して低水準です。多くの農村部には、携帯電話を持っている人はいても、電気網は無く水は共同井戸によっています。

リロングウェにて

リロングウェの国際空港で私は空港ビルや飛行機の写真を撮りました。このことは私の協力隊員時代から見ると驚くべきことです。当時はカムズ・バンダ終身大統領の統治下で軍事関連施設の撮影は禁止されていました。

しかも軍事関連施設といっても軍事とあまり関係しないような施設も含まれていたように思います。その意味では昔と比べると自由になったと思います。ただし政治的自由の問題はまだ解決済みではないようです。

リロングウェには立派な国際会議施設が新設されています。これらはアフリカ連合 (AU) 2012年総会のためのものでしたが実際には会場はエチオピアのアディスアベバに変更されました。今後はコンベンション観光に活用すると言われていますが、十分活用に必要な維持管理をすることは容易ではないと思います。

私が泊まったリロングウェのホテルの敷地内で、軽トラックが「バックします、バックします」と言っているのを何気なく聞いていましたが、よく考えるとこれは日本語です。以前からアフリカをはじめとする途上国には日本製であるばかりではなく、日本で使っていた中古車をそのまま輸入した車がよく見られます。車体に漢字でなんとか幼稚園とかなんとか旅館と書いています。日本のまだ新しい中古車の安さを考えると途上国に日本の中古車があるのは市場原理の必然のように思えます。



▲自転車タクシー

とはいえ、リロングウェでさえ市民の最も一般的な交通手段は徒歩のようです。また、ユニークなものとしては自転車タクシーがあります。

ムジンバにて

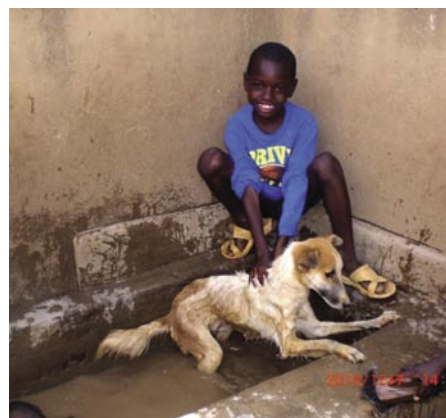
プロジェクトのスタッフにつれられてプロジェクトの対象の村を訪問するたびに主に女性による歌と踊りで歓待を受けました。ミュージカルは歌と踊りを舞台で演じるものですが、彼女たちは歌と踊りを生活の一部のようにさえ感じました。女性のチテンジ (スカートの上に巻くなどして使う布) のデザインはさまざまで、中には政党のスローガンがあるのもマラウイらしい気がしました。また訪問するたびに食べきれないほどのシマ料理にも招待されました (食べきりますが)。ありがたいというより、こんなに頂いていいのかと疑問に思うほどでした。



▲歌と踊りの歓待

農家にとってたえば年収12万クワチャの農業収入は大きいと見られるようですが、ムジンバの市場のなかの食堂のシマと肉の普通の昼食が300クワチャとすると、仮に家族の1人が毎日それを食べればそれだけで農業収入はほとんどなくなってしまいます。少なくとも金銭的に見る限り、都市的生活と比べるとまだまだ格差が大きいように見受けられます。クワチャの下落が進んでいます。出張時点で4クワチャ強が1円でしたので年間12万クワチャは1日約1米ドルにあたります。ただし農村部でも携帯電話を持っている人はいます。伝統的な市場でもよくtnmという通信会社の看板があり、そこで携帯電話のプリペイドカードを売っています。

ムジンバ町にあるプロジェクトの事務所は獣医事務所の1室を借りたものでしたので、毎週金曜日には消毒のために犬を飼い主が連れてきて消毒液の入った水槽で洗っていました。



▲犬の消毒

犬は消毒が怖いようでキュンキュンと泣いていましたが吠えたり噛んだりすることは見かけませんでした。私のいい加減な経験則に、犬が優しい所は概して人間社会が穏やかだ、というのがありますが、ムジンバ町はその例かもしれません。

おわりに

帰国前の12月中旬にもリロングウェのホテルに泊まったのですが、降雨の関係らしく、グンビと呼ばれる羽虫が大量発生しドアの間からどんどん部屋に入ってきて床が足の踏み場もないくらいグンビだらけになりました。私は気色悪かったのですが、マラウイの人はグンビを喜んで集めて炒めて食べるそうです。気色悪がる私はまだまだマラウイ通とは言えないようです。

それはさておき、頭を切り換えて世界銀行のデータを見ると、2011年のマラウイの1人あたり国民総所得 (GNI) は360米ドルで、コンゴ民主共和国、ブルンジ、リベリア、シエラレオネに次ぎ、ニジェールと並んで下から5番目です。私たちマラウイ関係者はこのことを直視しないといけないと思います。

投稿 グローバル講座マラウイ

～The warm heart of Africa～

平成21年度4次隊
本田克己 (木工)

私は現在「公益社団法人 青年海外協力協会 (JOCA)」の臨時職員として、千葉県浦安市にある「浦安市国際センター」の運営業務に携わっています。ディズニーランドがあることで世界的にも知られている浦安市ですが、センターでは外国人市民の日常生活を支援するとともに、国際交流・協力に関する情報提供・発信の場、さらには相互交流の拠点として、市民の方々の幅広いネットワークづくりを支援しています。そのような支援活動の一環として私どもは毎月、様々な行事を企画、実施しています。今回、昨年12月16日に行った「グローバル講座マラウイ～The warm heart of Africa」についてレポートします。

マラウイをテーマにイベントを企画した経緯に、センターでは一貫して今年6月に横浜で行われるTICAD-Vに向け、アフリカ大陸に焦点をあてています。そして私自身がマラウイに協力隊員として派遣され (H22.3月～H24.6月)、その活動やマラウイという国を多くの人に知ってもらいたい思いがあったからです。



▲スピーチする大使

当日のプログラムですが、オープニング・スピーチをMr.ルーベン・ングウェンヤ大使が務めてくれました。大使は自らこのイベントをセンターのHPで知り、奥様を同行して駆け付けてくれたのです。私たちセンター職員も当日に来館されることを知らされ驚きましたが、何よりも参加者の皆さんが大使のご好意と人柄に感動された様子でした。

その後、私の方から参加者に向けてマラウイ共和国の治安情勢、生活習慣などの基礎情報、隊員

の活動、JICAをはじめ日本との関係について映像や写真を使い説明させていただきました。参加者は協力隊OB・OG、マラウイからの留学生一人を含む約30名ほどでしたが、今回のイベントで初めてマラウイを知った市民も多くいらっしゃいました。

多文化、その国を理解するツールの一つに食文化を伝える必要があると考え、主食である「シマ」の試食会も行いました。素手で握って食べるその習慣に多くの参加者も興味津々といった様子でした。



▲シマを食べる参加者

イベント後半部分では私と同期にあたるシニア・ボランティアの政金 駿 (まさかね たけし) さんに自身の活動や印象に残った出来事などを講演していただきました。専門学校の講師の経験のある政金さんの話は大変お上手で、途中ハーモニカ演奏なども披露され、参加していたシニア世代の方々も感心された様子でした。



▲大使ご夫妻と政金さん、筆者

約2時間に及ぶ今回のイベントも好評のうちに大使を囲んでの記念撮影で幕を閉じました。(※詳しくは浦安市国際センター・HP http://urayasu-ic.jp/global/20121216_thewarmheartofafrica/ をご覧ください。)

最近グローバル化といった言葉をよく耳にします。世界の多くの国々が豊富な資源の眠るアフリカとの良好な関係を求め、さらには堅調な経済成長を遂げている国々を新しい市場ととらえています。JICAも多くの隊員をアフリカ諸国に派遣し、その努力と活動が評価されてきました。しかしその一方で国内での協力隊事業の存在価値が問われているのも事実です。まだまだ貧しく、自分たちだけの力では解決できない問題を抱える人たちがいること、そして協力隊員の努力が必要とされた事実、実際にアフリカでの生活で感じたいくつかの想いを発信し続けなければならないと思います。隊員活動中、あるシニア・ボランティアの方が、「思い出をつくって終わらせるな」とおっしゃっていました。「日本に帰ってからでも継続しなさい。そうでなければ何の意味もない」と、厳しくも感じた言葉でしたが、そのことを協力隊事業に参加した者の使命だと感じ、これからも私自身努力していかなければならないと思います。そしていつの

日かまた、たくさんの友達に会いにマラウイを訪れたいと思っています。

最後にこの場をお借りして、このイベントを成功させるために協力していただいた皆様へ感謝の言葉を申し上げたいと思います。有り難うございました。



▲大使ご夫妻を囲んで記念撮影

投稿 20周年記念剣道大会の報告

平成22年度3次隊
佐藤健大(家畜飼育)

2012年末まで家畜飼育隊員としてマラウイのミコロングウエ牧場で活動していました佐藤です。この度、本紙面をお借りし、マラウイ剣道大会の報告をさせていただきます。

2012年11月11日(日)、マラウイ剣道協会主催でマラウイ剣道20周年記念大会を行なう事ができました。大会には、マラウイスポーツ審議会のジャナ会長、日本大使館より小林参事官、JICA事務所より伊藤職員らをゲストに招き、総勢30名の剣士が技を競い合いました。

個人戦、初心者の部では、150cm 12歳の少年が、190cm 19歳の少年を破り、優勝を果たすという快挙で会場を沸かせました。



▲初心者の部の熱戦

団体戦では、三段のソンバ氏、初段のトゥントゥフェ氏、ムンタリ氏を始めとするマラウイチーム。対する日本も、二段、初段を始め経験者を有するチーム。激しい打ち込み、転倒後も迫るなど、勢いよく見応えのある試合が次々と展開し、大将戦が終わる時には一方のチームが沸きました。優勝トロフィー、優勝メダルはマラウイチームに輝いたので！



▲日本vsマラウイの団体戦

悔しいです。日本チームは負けました。しかし、伸び伸びと思いつき打ちつ剣道スタイルで勝ったマラウイなら、私が指導を離れても問題ないと感じた日でもありました。剣道は世界大会もあり、実に多くの国で行なわれていますが、欧米人などが関わらず、黒人のみで組織、運営しているのは、世界広しといえどもマラウイのみだと、会長のオースティン・ソンバ氏は誇らしげに話していました。



▲互いの健闘称え握手

本当の剣道隊員が存在せず、我々のようなボランティアが時々関わるだけなので、20年の間で日本人が関わらない年月も少なくなかったらしいです。マラウイ剣道協会会長のソンバ氏が一人で普及活動していた期間もありました。20年前に中川さん(平成3年度3次隊)が剣道を子供たちに教えてから、帰国後、今なお関わり続け、今大会にも記念メダルを作製、寄贈して下さいました。本当に心のこもった記念メダルを、そんな彼ら、マラウイ剣道の功労者たちの首に掛けることが出来ました。



▲中川OB作成の金メダル

今回、記念大会を成功させるため、TV、ラジオ、そして新聞にも出演してPRしました。司会進行、運営、交渉など、苦労は多かったですが、今回の盛会ぶりはそれに勝る喜びとなり、達成感はかけがえのない宝になりました。後輩隊員も剣道に関わるようになってくれており、マラウイ剣

道の理解者が増え、協力し、国境を越える心の繋がりをもち、そんな種を植えられ、私は思い返すと目頭が熱くなります。今なお、彼らに頼りに

される活動ができ、私は幸せです。羽ばたけ、マラウイ剣道!!



▲ 記念集合写真

日本マラウイ協会 2012年9月～2013年2月 主な活動内容

(1) 2012.9.26	9月定例会
(2) 2012.9.30	チェワ語辞典統合改訂 2版発刊(1面記事参照)
(3) 2012.10.6-7	グローバルフェスタ 2012出展(1面記事参照)
(4) 2012.10.24	10月定例会
(5) 2012.11.28	11月定例会
(6) 2012.12.19	12月定例会・納会
(7) 2013.1.16	1月定例会
(8) 2013.2.20	2月定例会

日本マラウイ協会情報

■ 当会への郵便物宛先、電話番号、E-mail変更

平成25年1月1日より当会への郵便物宛先が右の入会方法等に記載のとおり変更になっています。ご注意ください。これは、これまでの気付先であった国際協力サロンが12月末で業務終了したためです。これに伴い電話番号が03-6674-1331に変更になりました。また、E-mailアドレスをプロバイダの都合により4月1日より japan.malawi@gmail.com に変更します。なお、従来の japan.malawi@auone.jp は9月末で使えなくなります。

■ 第31回通常総会のご案内

日本マラウイ協会は第31回通常総会を別紙の通り開催します。会員の皆様は同封の葉書にて出欠をご連絡下さい。

■ インターネットでラジオ番組

インターネットでマラウイのラジオ番組を聞くことができます。ZODIAK ONLINEというサイト <http://www.zodiakmalawi.com> で画面右上の「ON LINE RADIO」と書かれたボタンをクリックするとチェワ語のトークやマラウイの音楽が流れてきます。このラジオ局はリロングウェで95.1MHzで放送しているZodiak Broadcasting StationというFM局。マイクロソフトのSilverlightというソフトのインストールが必要ですが、入ってなければダウンロードを促す画面が出てきます。また、画面の左側ではマラウイのニュースも読めます。

■ KWACHAバックナンバー

当会は2013年2月26日に設立30周年を迎えましたが、設立時の機関紙 KWACHA 第1号から第49号(今号)までの全バックナンバーをPDFファイル化し、当会ホームページに掲載しています。是非ご覧下さい。 <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm> から「日本語」を選択、左端のメニューから「機関紙KWACHA」をクリックすると、右ページに号数一覧が出てきますので、希望の号数をクリックしてください。

■ 日本マラウイ協会の刊行物

- (1) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版(1994年7月発行)A4版40ページ 1部 1,000円(送料80円)
 - (2) マラウイ旅行ガイド新訂第2版(1997年7月発行)「アフリカの暖かき心、湖とサハンの大地へ」B5版108ページ 1部 1,200円(送料80円)
 - (3) チェワ語辞典統合改訂2版(2012年9月発行) A5判194ページ 1部 1,500円(送料80円)
- 送料は「クロネコヤマトのメール便」扱いで表示しています。上記3種類を複数冊ご注文の場合は次のとおりです。
- (1)+(2) 各1冊 = 80円
(1)+(3) 各1冊 = 160円

(2)+(3) 各1冊 = 160円

(1)+(2)+(3) 各1冊 = 160円

購入ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。

●送金の前に、必ず注文内容(希望する「刊行物名」、「部数」、「発送先」、「申込者の氏名、電話番号」と、どちらの銀行口座に送金するかをメールでご連絡ください。

■ ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

■ 日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、原則毎月第3水曜日18:30～に、東京都内(原則：新宿区市谷のJICA地球ひろばセミナールーム)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

■ 日本マラウイ協会 入会方法等

入会申込書を当会ホームページからダウンロード (<http://www.h4.dion.ne.jp/~malawi/application.doc>) し、各項記入の上、E-mail添付で当会へお送り下さい。E-mailで入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合 1,000円 + 3,000円 = 4,000円)を下記のいずれかの銀行口座へお送りください。また、継続会員の方の年会費(個人正会員の場合 3,000円)は、E-mailでご連絡の上、お送りください。いずれもどちらの口座に送金するかE-mailでお知らせください。

〒102-0082 東京都千代田区一番町23番地3

日本生命一番町ビル5階

公益社団法人 青年海外協力協会 気付 日本マラウイ協会

TEL: 03-6674-1331 E-mail: japan.malawi@gmail.com

(1)三菱東京UFJ銀行 東恵比寿支店 普通口座255739

口座名義：日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗

(2)ゆうちょ銀行 〇一九店(ゼロイチキユウ店)

当座預金口座 0013125

口座名義：日本マラウイ協会

(ゆうちょ銀行から送金する場合は、口座番号：00190-7-13125)